

平成25年度第2回新潟市若年者自立支援ネットワーク会議 議事録

と き：平成26年3月25日（火）

と ころ：新潟市役所 第3委員会室

発 言 者	発 言 概 要
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ お待たせいたしました。 ○ 只今から、「平成25年度第2回新潟市若年者自立支援ネットワーク会議」を開催いたします。 ○ 本日は、年度末の大変お忙しい中、皆さまからお集まりいただきまして、ありがとうございます。 ○ 私は、本日の司会を務めさせていただきます、新潟市雇用対策課 課長補佐の高橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 ○ はじめに、新潟市雇用対策課長の金内よりご挨拶を申し上げます。
金内 雇用対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雇用対策課の金内でございます。本当に今日はお忙しい中、今日を含めてちょうどあと七日で今年度も終わるといふ年度末のお忙しい中お集まり頂きまして、大変ありがとうございます。 ○ 日頃よりサポートステーションの運営につきましては本当に皆さま方からご協力、ご支援頂きまして大変ありがとうございます。 ○ 今程ちょうど資料を配っているようですが、最近雇用情勢、非常に数字の上では良い方向、4か月連続して改善しているとかですね、一部に厳しさが見られるものの、着実に改善しているというような報告なされております。 ○ そしてまたこの3月に卒業する高校生、大学生の内定状況、そうしたものも、これまで以上にいい状況にあるという風には伺ってましますけれども、やはりそうした明るい兆しと申しますか、そうしたものがあ一方で、昨年10月の会議でも申しあげましたけど、平成24年度の総務省の労働力調査によると、全国でひきこもりの方が63万人程おると、というような事でその割合がやはり5年前に比べると当時1.9%だったのが2.3%に上がっておるといふような状況、これは若者に限った話ではなくて、一般の労働者、労働をめぐる状況につきましても、非正規が増大しているといふのは、大きな問題ではないかなという風に捉えているという所です。 ○ そうした中で一応新潟地域サポートステーション、全国に160ある中、後程ご報告あるかと思いますが、全国で自立件数としては全国13番目という事で非常にいい位置に位置づけておまして、そしてまた今年度25年度から学校連携推進事業というものが基盤的事業という事に組み込まれまして、本当にその面ではそれと並行してあるいは24年度からと言っているのでしょうか、新潟市若者支援センターオールと、新潟市ひきこもり相談支援セン

ター、とサポステこの3社が連携して新潟若者自立応援ネットというように、本当に皆さま方から協力頂きながら、ニートといわれる方々の職業的自立に取り組んで参った所でございます。その辺の数字はまた後程報告あろうかと思いますが、そうした中、国の方の26年度の事業におきましても若干国からの基盤事業についての予算と言いますか、その辺は削られるわけですが、いくつかのランクある中で一番トップのランクで、内定を頂いておるとい事で、これからも本当に若者の職業的自立におきまして、皆様と一緒に参りたいと思っております。

○ そうした中、昨年10月の時にはちょっと私共の時間配分も悪くて、なかなか皆さんから自由なご議論がご意見を頂けなかったというような事もありまして、今日はその辺の部分につきましても、お時間を用意させて頂きながら、闊達なご議論頂きながらですね、また新潟市の若者の職業的自立に向けて取り組んで参りたいと思っておりますので、今日はよろしくお願ひしたいと思っております。今日は本当にご出席頂きまして大変ありがとうございます。

事務局
(高橋)

○ では、限られた時間でもありますので、早速会議の方を進めさせて頂きます。

○ なお、本日の会議につきましても、会議録作成の為録音させて頂いておりますので、ご了承ください。

○ また、新潟日報社から、撮影及び録音の申し出がありましたのでご報告させて頂きます。

○ ここで本日の資料を確認させて頂きます。

○ お手元をご確認して頂きたいのですが、配布資料は本日の会議の次第、出席者名簿、座席表、資料1としましてホチキス留めしてあります新潟地域若者サポートステーションの活動状況について、それからA4横版になります資料2としまして平成26年度、ジョブトレーニングサポート配置事業について、また資料番号はありませんけれども、新潟市こころの健康センターから事業(抜粋)というA4裏表一枚もの、それから新潟大学さんの方から冊子で、データブック2014と、採用ご担当者の皆さまへというパンフレット、それから新潟労働局さんの方から最近の雇用失業情勢(平成26年1月分)というA3を折った裏表のもの、それからかとうファームさんの方からチラシが1枚カラー刷りのもの、以上となっております。不足等ございましたら係の方にお申しつけください。

○ 続きまして委員出席者の紹介でございますが今ほどお話ししましたお手元にお配りしました出席者名簿と座席表をもって、紹介に変えさせて頂きます。

<p>西條会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以上で事務局からの連絡を終わらせて頂き、これからの議事進行に関しましては西條会長にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。 ○ 新潟大学の西條です。よろしくお願い致します。 ○ 金内課長の方から順調に推移しているという話もあり、後程詳細のご説明があろうかと思えますけども、非常に喜ばしく思います。 ○ それでは座って議事進行の方進めさせて頂きたいと思います。 ○ まず次第に従いまして、2 の報告事項、新潟地域若者サポートステーション活動状況について、事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。
<p>事務局 (江部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それではご説明致します。新潟地域若者サポートステーションの江部でございます。よろしくお願い致します。 ○ お手元の資料1の方をご覧頂きたいと思います。 ○ まず平成25年度サポートステーション事業実績という形で説明させて頂きたいと思います。 ○ 事業の内容としましてはいくつかありますが、1番相談支援事業、次に2番学校連携推進事業とございます。一つずつご説明したいと思います。先程金内課長の方からお話し頂きましたサポステの進路決定者数が全国160か所中ちょうどあの4月から12月期の中では13位という非常に好成績を皆様のお陰をもちましておさめさせて頂きました。その中の支援の主だったものをご説明したいと思います。 ○ 支援プログラムの充実という事で、さまざまなコミュニケーションセミナーやらトレーニングをしてございます。その資料としまして1枚2枚捲くって頂いて3枚目に事業実施状況という表がございます。A4の表になり、数字ばかりで見にくいかと思いますが、これが昨年の4月からこの3月期にまとめて2月までの集計でございます。ここの真ん中の合計と書いてある所の受付カード数、新規登録者数217と書いてございますが、今年2月の末までですが、今年1年間で217名の方の新規の登録をさせて頂いております。その中でずっと下の方に降りて頂きますと、リファーマ数の下に進路決定者数があるかと思いますが、そこに199の方が進路決定をしている。1か月の差はありますがその辺の評価を全国160か所の中で頂いているかと思えます。ちなみにですが、7年間の合計というのが一番右側に出てございます。新規登録者数1347人を登録させて頂いて同じく進路決定者が870人、だいたい65%になりますが、その方々の進路決定の支援をさせて頂きました。 ○ その次の資料に、次のページですが支援プログラムの充実という

中で、セミナー実施状況と書いてございますが、時間の関係もございませぬので、皆様後程この辺ご確認頂ければと思ひます。

- 続けさせてもらひます。相談事業の特徴としましては、精度の高い見立てと支援プログラムの作成をさせて頂きました。簡単に言ひますと最初にお見えになられて登録をして即相談をするのではなくてインターカーと私ら呼んでおりますがご本人の最初、初回に接する職員がいまして、いろいろな情報をその時に入手させてもらひます。そのインターカーと呼ぶものがさまざまな角度から見立てをさせて頂いてそれから相談員に繋ぐと、いう辺りで非常にこれからの相談において非常に有効なやり方をさせて頂きました。
- 次に困難事例の対応として、利用者さんのケース検討会議を月に1回実施しながら、よりご本人に一番適切な支援を検討していくまたは他機関とのマッチングをこの時に検討していく、そんなような段取りをふんでおります。
- あとサテライト相談と言ひまして、新発田市さんの方で相談をさせて頂いていまして。またヤングジョブ新発田というそのサポステの縮小版なのですが、それを新発田市さんの方で開かせて頂いてそこでセミナーですとかトレーニングを新潟と同じような内容でさせて頂いていまして。と同じく今度は相談だけになるのですが、聖籠町さんの方でサテライトも設けさせて頂いていまして。
- 次に、臨床心理士というのを実は相談事業の中で配置させてもらひていまして。サポステに相談に来られる方の中にはご自身の特性に気づいてない方々がおられます。就労に向けての相談支援をより効率化させる為には早期にその方々に対しての見立てを行い、よりの確な機関へ誘導する必要があり、臨床心理士を配置させて頂いております。また、グループカウンセリングを実施しながら、就労間の調整と個々の課題性に努めております。というような意図で臨床心理士をつけさせて頂いておりますが、資料1の一番最後をめぐって頂きますと、臨床心理士の事例が載ってございませぬ。臨床心理士が関わらせて頂いた利用者さんの事例です。大変申し訳ございませぬ。これも時間の都合上ご説明はあれなのですが、要は臨床心理士が入らなければなかなかこの利用者さんにとっては支援が延びてしまふ。もしくは適切な支援ができなかつた逆に言ひますと臨床心理士が入った事により適切な見立てができ、また難易度の高い方々だったのですが最終的には本人の特性もしくはお持ちの障害その辺を示唆しまして最終的には就労継続支援B型のある事業者さんのほうにリファーさせて頂き、現在福祉就労についている方の事例になっております。相談支援事業としましては今申しあげましたような事で進めさせて頂いており

ます。

- それでは 2 番の学校連携推進事業です。学校連携推進事業というのはサポステ就労機関ですがそのまま実は学校さんの方で支援を行うという、なんで就労と学校とがそこで関係するのだろうと皆さんお思いの方もおられるかと思うのですが、サポステに実は来られる段階では中々遅いといいますか、学校に通えている段階でなんとか支援をして最終的には中退をされる方もおられますし、また卒業後進路が未決定の場合ご本人が一体今後どうしたらよいのだろうかと悩まれている中でサポートステーションに繋ぐという意味で、出来るだけ早期に支援を行うという厚労省の目標がございます。ということで学校さんの方に入らせて頂きました。
- いろいろな課題がございますが、低学力という問題から始まりましてご本人の特性や障がい、また生活困窮その辺から始まります。不登校そして中退へと非常に課題が幅広く、ひきこもりやニートの状態に陥る事を未然に防ぐ意味でも、学校連携支援事業は重要な位置を占めております。
- 具体的な内容を申し上げます。ここにも書かせて頂いておりますが、新潟市若者支援センターのオールさん新潟市ひきこもり支援センターのひきセンさんそして私どもサポステの 3 機関が結びついて高校中退予防、またはひきこもり化を防ぐ目的で新潟若者自立応援ネットとなるものを結成致しました。そのネットでは、モデル校として新潟市立明鏡高校さんをモデル校と位置付けて校内でのフリー相談室を実は立ち上げてございます。
- その相談室の中で先程申しあげました臨床心理士が、相談支援員として仕事をさせて頂き非常に各機関オールさんひきセンさんサポステの各機関の専門分野を活用しながら学校不適応児の対応をこれは先生方と保護者の皆さんとスクールカウンセラーさんと一緒になって検討しながら、進路未決定者のサポステ誘導を図るというどっちかと言いますと横の広さもありますが縦の広さもあると、層の厚い支援を行っております。またそのネットの中では、PTAの保護者さんを対象に、今程申しあげましたオールさん、ひきセンさんでサポステに加えまして実を言いますとハローワークさんの若者しごと館さんジョブカフェさんと若者、いわば若年者支援機関をめぐるツアーといいますか見学会を開催致しました。そういったさまざまな事をさせて頂きながら正直申しあげまして学校さんとはとても厚い信頼関係を現在築きながらオーバーな言い方ですが新潟市の若者支援体制の礎になろうかとなんとか追いつきたいという事で現在活性化を図っております。
- そんな事で次のページに行って頂いて、学校連携の実績が書いてございます。これも数字だけですが、さっと見て頂くとわかりま

すが個別の面談が 63 名にさせて頂いております。これは延べ数です。対象実人数が 21 人と書いていますが実はこの他にまだここに加えてない方々が約 30 名ございます。これは個人情報等いろいろな事もあって、詳しい内容は申しあげられませんが、この他に明鏡高校さんで 30 名の方の支援をさせて頂いております。あと就労決定者という事で高校生ではありますが実は中退をされた方ですとか、今休学しているが今度は転学しようと、その間に働きたいとかいろいろな方がおられまして就労決定者 5 名出してございます。あと復校して中退された方が 2 名。これは私たちの支援の中でございました。連携校として、非常に連携が厚いという意味で書かせて頂いておりますが、9 校と連携させて頂いております。

○ あとこの他なのですが学び直し支援というのがございまして私らプラットフォームと呼んでおりますが一体何かというとその塾ではないんですが登録時ご本人に目標を設定してもらいなんらかの理由で今まで勉強でつまずいて、今後働く為に最低限度必要であるという読み書きそろばんをご本人がどうしてもやりたいと意志が明確化している方に対してそうゆう方々を対象としましていろいろ学習支援をしております。ご本人の希望によっては高卒認定試験に挑戦する方も今までおられました。

○ また、今年度ですが就労に必要という事にあたってはパソコンが出来ていないと会社に入っても。という事もありましてパソコン技術の習得会を全 11 回、これ現在行っております。という事で学び直し支援の方は 37 名さんが大体参加しております。内、先程申しあげました高卒認定という事でお二人の方が受けられてお一人は一発で全て合格をされました。お一人は科目合格段階されています。お二人とも何かしらで合格を勝ち取られております。今程申しあげましたパソコンの講習としまして 7 名さんがパソコンの講習会に参加されております。簡単ではございますが、以上ご説明さしあげました。次に変わります。

事務局
(柄澤)

○ ジョブトレーニングの配置事業についてご説明申し上げます。
○ ジョブトレーニングサポーターの柄澤と申します。よろしくお願ひします。まずジョブトレーニングの内容と位置づけでございまして、サポステの門を叩いた若者は、まずはインターカーと呼ばれる専門の相談員が悩みを聞きまして、担当相談員が決まります。担当相談員といろいろ相談を重ねつつさまざまなセミナーに参加して頂きます。コミュニケーションが苦手な方はコミュニケーションセミナー、それからただ今、江部から話がありましたようにちょっと学習につまずいているという方には学び直しのセミナー、さまざまなセミナーと相談を通しまして、心身ともに回復し

てもう一步でハローワークで自力で就職活動が出来るなという風な所まで回復した利用者さんに対しましてジョブトレーニングを行うわけでございます。我々のやっているやり方は週一回2時間それを3か月続けるという事でありまして。相談員がそろそろジョブトレ行ったらどうだと、利用者さんの方でもジョブトレやりますと言いますと我々の出番になるわけでございます。相談員利用者さんそれから我々ジョブトレサポーターと3者でジョブトレ受入先の一覧表がございまして。これ一覧表を見ながら自分がどのようなジョブトレをしてどのような力をつけた上でハローワークで就活をするのかという風なことを決めまして、ジョブトレを始めるという事になります。その際受入先企業様との調整、今の時期ちょっと待ってくれとか、大丈夫だよ、いいよ、とか何曜日ならいいよ、とか、そのような調整と時間の調整等を行います。3か月行う訳でありますけども、いくつか注意している点がございまして。まずはこのパンフレットだけではわかりませんので、1回は見学をさせて頂きます。もちろん我々もついて行きます。見学をした上で、この業種、この場所であれば3か月間やれるなと私の望むスキルが身につくそうだなという事であればジョブトレに入ります。ちょっと考えていたのと違うなという事であればまた戻って3人で改めてジョブトレ先を検討するという事になります。見学した後いざ始めるとなると、必ず初回同行というのを行います。やはり初めて就職をするあるいは以前に就職に失敗したと人間関係から失敗したという風な利用者さんもございまして。非常に緊張して臨みますのでその緊張をほぐすというのも我々の大変な役目で、初回同行というのは大変大事にしております。初回を乗り切りますと、これは利用者さんによりましてはほぼ受入先の担当者の方にお任せしていいなという風な判断にすれば、一月に一度、様子を見に行きどうだ。という風な事ではその間も定期的に相談員と相談は続けておりますのでジョブトレとはパイプはあるわけでございます。初回同行でちょっと手厚く見てやった方がいいなという風に判断した場合には毎週となりますとこれは向こうの受け入れ先さんも気を遣いますのでまあ2週間くらい程度行って3か月目ぐらいになりますと大体落ち着いて、ひと月にいっぺん位になるというのが殆どなんでございまして。そうやって3か月のジョブトレを終了するという事でございます。終了に際して改めて協力事業所の担当者様それから我々ジョブトレサポーターそして当該の本人と3人で3か月間どうだったかと、いう風な振り返りの会とっておりますけども反省会を行います。その結果を相談員にフィードバックして、相談員には再度、就活に向けた再相談をするという事でまた相談員の手でジ

ョブトレ生が移ると、このような流れになっております。

- 今年度特出する事ではないのかなと思って書いたのですが、予算をつけて頂きまして3年目になります。今まで緊急雇用事業の予算でございましたのでどうしても1年ごとにジョブトレサポーターが変わるという風な事がございました。その都度引き継ぎ等それから協力事業社さんへの顔繋ぎはするんですが、なかなか100%うまくいっていなかった年がございましたので、ジョブトレの流れをマニュアル化しましてジョブトレーニングマニュアルという内部資料このような物を作って、ジョブトレサポーター今2人おりますけども2人が同一步調でまったく違いの無いようなサービスをしようと、いう風な事を心がけております。来年からは一般財源に変わったという事でございますので、ジョブトレサポーターが変わるという風な事も無くなる可能性が高いのではないかなという風に考えております。
- 2月末現在で61名、延べ回数にしまして774回のジョブトレを行ったと、いう事でございます。これがジョブトレサポーターの本分なわけでございますけども、その他に(2)以降ちょっとご説明お時間頂きたいと思っております。ジョブトレ内セミナーというのを実施しております。今年度から実施を始めました。やはり先程申しましたように非常に緊張しております。行く前にどんな挨拶をすればいいんだろうとか、知らない上司にあたる方とどのような応接をしたらいいのだろうかと、同僚にあたる方とどのように話をすればいいのだろうかと何にもわからない状態でジョブトレに入るといのが今までの様でございましたので、そういう基本的なノウハウと言いますか、ハウツーと言いますか、そういう物をジョブトレ経験者のインタビューを含めて月に1回実施するようにしており、大変好評でございます。
- 次のページに3番としまして新規ジョブトレ先の開拓と書きました。実は1年間やってみましてこれが一番大きな課題だなと考えております。皆様ご承知のように新潟サポステは新潟駅前のハローワークの2階という、大変立地のいい場所でございます。新潟市内からサポステまで公的交通機関を使って来るとい事は大変な方もいらっしゃるんですけども多くの方は公的交通機関を2つ程乗り継げばだいたい来れるという事で、サポステには来れるんですけども、ジョブトレ先というのは市内に散らばっております。そうしますと、例えば西区の利用者さんが、東区にいいジョブトレ先があるから行ってみようと思っても、実際に足がない、という風な事で諦めざるを得ないという例が今年も何度もありました。これを防ぐ為には大規模なジョブトレ先の開拓をいうのが大事だなという風に強く感じております。

- 今年度、全国のいくつかのジョブトレを研究視察させて頂きましたけども、あるサポステさんでは本人たちは営業マンと呼んでおられましたけども、ジョブトレ先開拓専門のスタッフを置いている所もある程でございまして、我々そこまで出来ませんけども開拓をしなければならないなと思っております。その中で今年度、大手のレンタルショップ、ブックショップを一つ開拓致しました。ここ一つ協力して頂くという事で配下のお店が全部ジョブトレに協力して下さると、いう風な事になり大変助かっております。その他、細々した所でいくつかございますが、県立生涯学習推進センター等もジョブトレに手を挙げていただいています。という事でこの流れを大きくしていきたいなど、時間がありましたらまた後程お話ししたいと思います。
- 4 番の新潟地域就労体験受入企業連絡会で、今までジョブトレ先になって頂いた方々にお声がけしまして今年度は 4 回ジョブトレのあり方についてそれからジョブトレの現状について我々から話をし、ジョブトレの在り方についてご意見頂く、という会を致しました。
- 5 番ジョブトレ in 新潟の開催とありますが、実際にジョブトレをしたジョブトレ生、その後就職も決まった方とジョブトレをした企業、協力企業さんそれぞれに集まって頂きまして、さらには、これからジョブトレをやりたいという、ジョブトレ候補者といえますかあるいは今後ジョブトレに参加させたいなど担当相談員が思っている利用者さんそうゆう方々一堂に集まって頂いて、さらなる 3 月 7 日に、今年テーマは感謝という風な件でジョブトレ生がジョブトレ先に感謝をする形を取って、ジョブトレ先の方から励ましの声を頂くと、いう風な会を致しました。既にジョブトレを終えてハローワークを通じて就職が決まっているジョブトレ生、我々ももちろん何人もいるわけですが、出来るだけ可能な限り出てくれという風な事で案内致しまして何名かは勤務先に派遣申請を出して来て頂いている事もございます。概ね好ましい評価を得ました。特にもう就職が決まっておいで下さる元ジョブトレ生には我々からお願いしまして是非スーツにネクタイで来てくれと、ゆう風をお願い致しました。サポステに来る時にはラフな格好で来るわけでございますけどもやはり仕事をするとうんだなという事を目に見える形で効果的にアピールする意味でも良かったかなという風に思っています。もちろん話の内容も大変にこれからジョブトレをする者にとって利用者さんにとって刺激的でいい話が聞けたし、協力企業さんからもジョブトレの雇用についていいお話しを聞く事ができました。以上でございます。

西條会長	<p>○ はい、ありがとうございました。只今の事務局からの説明について何かご質問ご意見はありますでしょうか。</p> <p>○ 私から一点質問させてもらってよろしいですか。本年度新たに学校連携推進事業については少し力、取り組みを評価されたという風に認識しているんですけども、先程明鏡高校がモデル校として位置付けて相談室を立ち上げられたという事なんですけどもそれ以外に連携校として 9 校ありますけどもその各学校とはまたどのような形で事業が行われたのか。また連携 3 レベルというのが具体的にどんな事なのか教えて頂ければありがたい。という風に思います。</p>
事務局 (江部)	<p>○ 連携 3 レベルというのが 1.2.3 とあるのですが一番深いという意味での 3 ですけども、現実的に相談を受けて実際に支援が始まっているという段階で 3 という意味なのですが、先程明鏡高校さんの方は新潟市さんとのネットでの連携という事もあって、とりあえず明鏡高校さんをモデルとしたんですが、その他の学校さんとはどうかというお話なんですけども、現実的に実際に学校さんに出向いた上でいろいろなご相談に応じ、またその例えばセミナーですとかトレーニングですとかそういった事も学生さんの段階なんですけども、例えば全日制の学校でなくて定時制高校さんとかですと、サポートセンターさんが来れる時間もあるものですから、そういった事で、そこまでの支援をさせて頂いています。ただこの 9 校が全部そこまでいっているかという全部一斉にそうかという事ではなくて、やはり実際に相談だけの学校さんもありますし、そこまで進んでいる学校さんもあります。</p>
西條会長	<p>○ ありがとうございました。はい、他に何かご質問ご意見はございますでしょうか。</p>
事務局 (佐藤)	<p>○ よろしいですか、今の補足ですけどもネットで動いているという話しさせてもらったんですけども、それが新潟市の生涯学習課さんが主導して下さっているオールとひきセンとサポステのその 3 者で行っているんですけどもその元々が新潟市若者支援協議会という市で持っているその協議会の中の一つのシステムとして生涯学習課さんを中心にしたネットを運営しています。補足させて頂きました。</p>
西條会長	<p>○ ありがとうございます。他に何かございますか。</p>
高橋委員	<p>○ 県の労政雇用課でございます。参考に一つ教えて下さい。横判の</p>

(代理：遠藤)	<p>事業実施状況というので、一番上辺りですけども来所延べ数、本人、保護者とありまして、その他の区分がございまして、8月、10月で非常に増えている状況にあります。これはどういった方でらっしゃるのかというのが一つと、それからもう一つ25年度24年度からでも結構なんですけども、最近の傾向として何か利用者の方に何か特徴的なものがあったら参考に教えて頂きたいのですが。</p>
事務局 (佐藤)	<ul style="list-style-type: none"> ○ まず今年度の8月と10月のその他の人数なんですけども、こちらはシンポジウムを開催した際の来所された方の人数が含まれております。8月は新潟市で6周年記念シンポジウムを開催しましたので関係機関の皆様または一般市民の方々が多く来場していただいております。10月は新潟県の地域振興局との共催事業で阿賀野市の方でセミナーをさせて頂きましたので、こちらも同じように阿賀野市近辺の関係機関の皆様、そして一般の方の出席された方の人数が含まれております。 ○ もうひとつ最近の相談者の方の傾向なんですけれども、以前はサポステの受け入れ窓口が広がったものですから本当にさまざまな方がお見えになっていたんですけども、ここ1、2年はサポステが就労機関であるという周知がなされて来まして本当にあの就労を目指す方というのが増えて来たように思います。例えば、まだ家からなかなか出られないのだけど、将来的に就労を目指したいといったような方は今は新潟市のひきこもり相談支援センターさんの方へ来所されていると思いますし、またはそこから少し出られてまずは社会参加されたいという方は若者支援センターオールさんをご利用頂いているのではないかいという風に思っています。
高橋委員 (代理：遠藤)	<ul style="list-style-type: none"> ○ わかりました。
西條会長	<ul style="list-style-type: none"> ○ よろしいでしょうか。他に何かございますか。
今井委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ よろしいですか。一番大切というか新規のジョブトレ先が開拓が非常に市の課題でもあるし、一番大切だし、先程のお話だとその開拓を専門にしたスタッフの方がいらっしゃるという機関もあると、新潟市さんというのは、含めてそういう予算というかないんですか。開拓専門のスタッフさんが開拓するような形。今どなたがやってらっしゃるんですか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今はジョブトレサポーターがその業務を行ってます。

<p>(佐藤)</p> <p>今井委員</p> <p>事務局 (柄澤)</p> <p>金内雇用対策課 長</p>	<p>○ やっぱり専門の方がいらっしゃれば相当随分違いますよね。</p> <p>○ 確かに専門の方がいらっしゃればそれは進むと思いますけどもまたその方は専門に各企業さんをまわる訳でありますので繋がりも深くなって地域にも溶け込んで大変いい事だと思いますが、我々ジョブトレサポーターの本分はジョブトレ生の世話というのが本分でございますので、そちらを優先致しまして、手の空いた時に開拓をしているというのが現状でございます。</p> <p>○ 平成 19 年にサポステが出来て、当時この地域の手上げ方式という中で市として行う部分は先程の資料 1 で言いますと 1 番にある臨床心理士については市の予算って事ですけど、基本的に国の基盤事業で相談事業を行って下さいよ。という中と、後やはり 19 年にできて、先程佐藤所長の方からもだいぶ認知して頂いて理解して頂いてそれぞれの適切な所に相談に行くようになったという事なんですけど、その中でより効果的な取り組みが出来るようにという事で先程生涯学習課が中心となってそれぞれの相談が振り分け出来るような情報の共有、やはりそこに場合によっては心の問題というのもあるでしょうしそんな中でいろんな所に情報を共有しながらこうゆう人が来たらこちらに行ってくださいオールに行ってくださいというように出来ているのですけどもなかなか市の予算の立場で行きますとたまたまそれで平成 23、4、5 年度ですかね。国の緊急雇用というお金があってそれが私どもの雇用対策の立場で言うと若者のこうした職業的自立、なかなか行けない方に対する支援は大切だという事で措置は予算を活用しながらやってきたのですが非常に財政状況厳しい中どうしても今日お集まりの方達は良くご理解頂いていると思うのですが、一般的には雇用情勢も良くなっている中、違う考え方も出来るのではないかとかそうゆう部分があって非常に新年度 26 年度の予算についても最終的につきましてもなかなかそうゆう兼ね合いで難しい部分があります。そうした中で今程今井委員の方からご指摘があったジョブトレ先専門の、開拓専門のという部分まで正直手が回らないという事と、後やはりあとジョブトレ先が先程もありましたように遠方にある為その交通手段をどうするんだと何から何まで手当てしてあげるとまたそれは自立に向けては如何なものかと、かといって現実公的公共機関がない所にどうやって行けばいいのだろう。というような非常にその辺の挟間というかせめぎ合いもありまして、なかなかそうした状況があるのがご理解頂ければと思います。</p>
--	---

西條会長	<p>○ ありがとうございます。また私からもう一点聞いていいですか。今あの村上のサポステがあってそれが新発田の方にといい話にちらっと耳にしたりしたことがあったのですが、このこちらのほうの新発田のサテライトとの関係その辺というのはどんな位置づけになっているのでしょうか</p>
事務局 (佐藤)	<p>○ 後ほど 26 年度の事業計画の所でもお話ししようと思っていたんですけども。</p>
司会	<p>○ じゃあまたそこでご説明していただければ結構でございます。申し訳ございません。</p> <p>○ はい、それではあの特に質問が無いようでしたら次に進めさせて頂きたいという風に思います。引き続きまして平成 26 年度サポートステーション事業計画ジョブトレーニングサポーター配置事業について事務局からご説明お願い致します。</p>
事務局 (佐藤)	<p>○ はい、サポートステーションの総括コーディネーターの佐藤美奈子です。いつもサポステ事業におきましては皆様から理解とご協力頂いております事を感謝申し上げます。お手持ちの資料の事業計画の所に簡単にまとめておりますのでこちらご覧ください。</p> <p>○ まず 1 番の全体です。今程西條先生からご質問がありましたけども、サポートステーションの県内 5 か所のステーションの中で担当のエリアの再編が 26 年度行われる事になりました。新潟地域におきましては新潟サポステは新潟市のみ、そしてこれまで村上サポステとしまして県北地域を担当してきましたサポステが拠点を新発田市に移しまして下越サポステという事で運営して行きたいという風に考えております。新発田サテライトとの関係なんですけども、新潟サポステのサテライトとして平成 19 年から新発田に伺っていたんですが、今年度 25 年度に新発田市さんから拡充をして頂きまして、これまで週一回だった相談が今年度は新発田市で週に 3 回から 5 回開設することが出来ました。新潟サポステの中でも新潟市以外のご利用が新発田市の方が一番多くいらっしやって、新発田市のみならず周辺の市町村例えば阿賀野市さんですとか五泉市さんですとか阿賀町さんなどあちらの方々がなかなかサポステを利用出来ないというお声を頂きましたので、それでは下越全域を見るようなサポステをという事で皆様からお金を頂きまして 26 年度からそのようにエリアを編成する事になりました。また新潟以外でも三条や長岡の方でも柏崎や魚沼地域などのエリアの再編があるという風に聞いております。</p>

<p>事務局 (柄澤)</p>	<p>この県内 5 ヶ所になる事によってこれまで地域によってサービスの格差があったのですがこれが不均衡を取り除くという事になるという風に考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2 番の相談支援事業です。新潟サポステの支援対象が新潟市のみとなったことを受けまして、遠隔地での出張相談を開始予定です。ハローワークと連携し、より高い就労率を目指す為にハローワーク巻とハローワーク新津での出張相談を予定しております。また平成 25 年度より実施しております、サポステ内での新潟市発達障害支援センター J O I N の出張相談も継続予定です。 ○ 3 番学校連携推進事業。新潟市若者支援協議会による新潟若者自立応援ネットにおいて相談、教育、医療、福祉、行政の関係機関と連携し、就労支援期機関としての役割を果たします。 ○ 4 番支援プログラム事業。セミナーシンポジウムとこれまでアイデンティティを確立するまで安心して過ごす場所として居場所を運営してきましたが、新潟若者自立応援ネットの連携で、新潟市ひきこもり相談支援センターや、新潟市若者支援センターオールでの事業ヘリファーし、キャリアセミナーや職業講話、職場見学等の内容を見直し、より一層就労支援の取り組みを強化します。 ○ 続いてジョブトレサポーター配置事業。 <p>○ かつこ 1 かつこ 2 と書きましたが、まずはジョブトレの意義の見直しと書かせて頂きました。先程からネットが機能し始めてひきセンさんオールさんそれから我々サポステとの役割分担が明確になったという事が周知されつつあります。就労意欲の高い若者が集まって来ているというのは事実であります。ただ例えばやっとひきこもりから抜け出して私も働かなければならないなど思い始めた方がジョブトレの門を叩くという事になりましたので就労までに至るそのスキルといますかキャリアがかなり幅広くなって来ているという風なのが事実でございます。そうしますとこの新潟サポステ発足当時はジョブトレを出口戦略と捉えて 3 カ月ジョブトレした後ハローワークだよという事でやって来た訳なんですけどもここ数年見ますともちろんで出口戦略という基本線は変わりませんが、朝 10 時頃目が覚めると、夜中まで起きてるという風に生活リズムが崩れているという風な若者に就労と言っても中々大変でございますので、農業ジョブトレで 3 ヶ月間決まった時間に週一回ではありますけども農作業をやって汗を流して生活規律を立て直そうとかあるいは全く不登校で人と話をした事が無いと、しかし就労しなければならないと目覚めたという風な方にはコミュニケーションスキルの講座はもちろん出て頂きますけども、座学ではない現場でのコミュニケーションを学び場として</p>
---------------------	--

のジョブトレという風な事も3カ月やってもらおう。それを狙ってジョブトレに出してくれという相談員も実際おりますのでそういうのも引き受けています。そうしますとジョブトレの意義が出口戦略のみならず生活規律やコミュニケーションスキル向上の場として幅が広がったという風にこの1年やってみて考えるようになりました。それでその為にももっとジョブトレ先を増やさなければならぬという所に話がいく訳であります。今までの6年間の資料を見ますと中小企業に大変お世話になっていたというような資料がいろいろ残ってございます。このお世話になっているというような事実は今後とも変わらずにお世話になって行きたいなと思っております。その他に今考えておりますのが、あ・い・うと3つ書きましたがいくつかのルートで開拓をしていきたいなと考えております。

- まず要請ルートと書かせて頂きましたけども、この前生涯学習課の主催する会議がございまして、私でない別の者が出たんですけどもジョブトレについての説明が主だったという事で、質問と説明が主だったという事でやはりジョブトレ先の開拓についてその者が私と今話しているような内容を話し同じような話をしましたところ、生涯学習課ですので図書館を持っている訳ですが、新潟市の各区の図書館をジョブトレ先として紹介する事も可能だよという風なお話も出たという事でその話を聞いて早速電話で確認を取りましたらそれは可能だという事で4月に入って新年度落ち着いたら出向いて正規のルートを通してお願いに上ろうかなと思っております。同様に新潟市の出先機関でジョブトレ先としてお願い出来る所はまだまだいっぱいあるのではないかと思いつく所を主にあげますと美術館とかいくとびあとかですとか食育花育センターですとかああゆう所での受付ないし庶務等で、ジョブトレとして十分にジョブトレ生にとって有益な、しかもジョブトレ先にとってはそんな負担にならない所というのはまだまだ探せばいっぱいあるのではないかなという風に考えております。
- 次が大規模チェーン店ルート。先ほどレンタルブック店さんの一つになって頂いたと聞きましたけど、別の業種で市内にいっぱいのお店を持っている業種がいくつかありますが、そこ一つトップに話をわかってもらえれば、そこのお店全部店長さんに協力して下さるという風な事になって非常に効率いいなという風に考えております。3番目のプレジョブの話とも繋がりますけども、そういう所はプレジョブを引き受けているところも多数ございますので話を上手にもっていけば協力して下さるのではないかなと思っております。
- 3番目のプレジョブの受け入れ企業さんなんですけども特別支援

	<p>学校の進路指導の先生が非常に熱心にプレジョブ先開拓しておられます。その方々のご指導を見ながらプレジョブ先もジョブトレ先として開拓出来ればいいなという風に思っております。昨年度までは緊急雇用という風な事でたくさんついておりましたので、さっき私いくつかのサポステ見学に行ったという風なお話し致しましたが、緊急雇用で付いた研修費で行かせて頂いたものでございます。大変ありがとうございました。こっちはそれが無くなりましたのでその分逆に言えば時間が空くという風な面もございまして、ジョブトレサポーターの本分以外に外に出てジョブトレ先の開拓という風な時間は今年度よりは十分いっぱい取れるという風に考えております。</p>
<p>事務局 (佐藤)</p>	<p>○ ジョブトレ先の開拓是非たくさん増やして来年度開拓をして、増やして再来年度にさらに続けていきたいという風に考えている所存でございます。ひとつご協力よろしくお願い致します。</p> <p>○ では 6 番の卒業生ステップアップ支援事業についてご説明致します。平成 26 年度より新たな取り組みとしてこのようなステップアップ支援事業が始まります。160 か所のサポステの中で 60 か所認定されまして、新潟では新潟サポステだけがこれをやらせて頂く事になっております。サポステを利用して卒業された方がその後どうなっているのか追跡調査をしているのか。という事を何度かご指摘を受けておりまして、そこを今度は丁寧にやっというふうな事業です。せつかく就職してしまっても定着率が悪いという事でそこをなんとか 1 年 2 年 3 年と続けて行くような支援をするというのが 1 番の目的です。ここに (1) (2) (3) とありますけれども 1 番のキャリアコンサルタントによるステップアップ相談、(あ) 職場定着支援 (い) 非正規雇用から正規雇用への相談支援や転職の為の相談 (う) キャリア形成に資する資格取得等技術技能向上に関する相談支援 (2) サポステ卒業者に対する本事業の周知 (3) サポステ卒業生の就労状況の把握という事で対象は平成 25 年度にサポステを利用して就職された方になりますが、その方がその後どうゆう風にお仕事されているのかまたステップアップしたい時にすぐに相談に来られる窓口の設置という事を今計画しております。来年度の事業計画は以上です。</p>
<p>事務局 (和田)</p>	<p>○ はい。それでは続いて事務局の方から平成 26 年度ジョブトレーニングサポート配置事業についてご説明したいと思います。</p> <p>○ 資料 2 お手元の資料 2 についてご覧頂きたいと思います。只今のサポートステーションさんからの説明と何点か重なる部分がございますけどもご了承頂きたいと思います。それでは平成 26 年ジョ</p>

ブトレーニングサポート配置事業について、この事業は国の緊急雇用創出事業を活用し平成23年度から3年間継続して実施している事業でございます。その経過といたしましては資料の左側中ほど、これまでの実績、をご覧頂きますと、ちょうど平成23年から自立件数が拡大しており、関係する皆さまとのご連携それからご協力頂いている他にもこのジョブトレサポーターを配置した事による効果が出ているものと、そして全国的にもトップレベルの自立件数が出ているものという風に感じております。しかしながら緊急雇用創出事業の活用による本事業の継続は国の制度変更により困難となった事から平成26年度新潟市の単独事業として引き続き事業を実施し、さらに臨床心理士による相談業務の拡大など、制度を充実させて若者の職業的自立を支援してゆく。そういったものでございます。

○ 具体的には資料の中央取り組みの内容の四角囲みの下のポチの所でございますけれども、臨床心理士のカウンセリングの状況これはおよそ2カ月待ちとなっているのが現状でございます。この為臨床心理士の相談時間を現行の2倍とさせて頂き、週10時間に拡大し若年無業者の職業的自立について継続かつ効果的な支援を行っていきたいという風に考えております。またその下でございませぬけれども、本市の特徴でもある農業分野へのジョブトレ受入企業の拡大に力を入れて若年無業者が農業を通じ自立していく事で地域経済の活性化に繋がっていくものという風に考えております。今後も新潟地域若者サポートステーション各位、関係機関の皆さまと連携し若年無業者の自立支援に積極的に取り組んでいきたいという風に考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。私の方からは以上です。

西條会長

○ はい、ありがとうございます。平成26年度事業計画およびジョブトレーニングサポーター配置事業についてご説明頂きました。それではただ今の事務局からの説明について何か質問やご意見はありますでしょうか。

福島副会長

○ こころの健康センター福島です。ちょっと教えてください。26年度事業の所の4番支援プログラム事業。「居場所を運営して来ましたが、」という点で、という事で逆説ですよねこの「が」は、でしかし新潟若者～見直し、評価しますという所で、具体的にはすいません文章の意味が分からないんですけども、どうゆう事を具体的にはされるという事なんですか。リファーマも今まではしてきたし、居場所も今までもして来たし、という所でこの～は変わらなくてキャリアセミナーとか、職業人講話とか、内容を見直す

	<p>という所が習慣になるのでしょうか。</p>
事務局 (佐藤)	<p>○ 書き方が上手なくて申し訳ございませんでした。 まず一つは居場所を運営していて開設当初は非常にこれが効果的だという風感じていたんですけど、だんだんサポステの支援内容も少しずつ変わってきて、ここにこう滞留する人が増えて来たというのも一つです。同じような居場所の機能を果たしている所がひきセンさんやオールさんがあるのでその居場所をご利用したい方はそちらへ、そして今までサポステがそれをやってきた分、より就労に近いセミナー等を開催していきたいといったそういう意味で書かせて頂きました。</p>
福島副会長	<p>○ 今までの居場所で言うと、ひきセンの居場所は本当に出てきて間もなくの人で、そういった人たちがサポステの居場所に行くと、すごく皆元気になってるんでそこにはすぐ行かないからせめて居場所を作ってステップアップしていけたらいいねという感じでやっていたんですけども、その役割は今度、無くなる。それともオールさんの方でやって頂くというどうゆうイメージなのかなということですよ。</p>
事務局 (佐藤)	<p>○ 実態としては今、月に一度ひきセンさんとサポステで合同で居場所をしていしているんですけども実際にひきセンさんから来られる方というのは非常に少なくてサポステで元気になっているんだけどその居場所に行ってしまう。ですので、その当初の目的であった出づらい人がサポステにリファーする為の居場所という機能が今は無くなって来てしまったんですね。サポステに滞留してしまっている就職も出来るんだけど一歩踏み出せなくてまだ残りたい方達の居場所になってしまっているというのが。</p>
福島副会長	<p>○ そこに対しては、どうゆう事をしていく、仕掛けていくのですか。</p>
事務局 (佐藤)	<p>○ その滞留してしまう居場所というのはよろしくないんで、今オールさんがやっている居場所にリファーさせて頂くという事で、そこで本当に就労となった時にまたサポステに戻って来てもらう。ということですよ。</p>
福島副会長	<p>○ ひきセンから今後オールの方に行ってサポステさんの方に。という流れのイメージですね。</p>
事務局	<p>○ はい、そうですね。</p>

(佐藤)	
福島副会長	○ はい、ありがとうございました。
堀内委員	○ 伴走舎の堀内です。お疲れ様です。新潟のサポステも含めて、サポステの事業がどンドンどンドン就労に特化してきているのは本当に肌を感じるんですね。私自身一番最初に新潟県に持ってきた張本人ですから、この後どうゆう風になっていくのかなとちょっと心配があります。今この会議は自立支援ネットワーク会議という名目で皆さんお集まりになっているのですが、それとは別に新潟の若者の自立応援ネットという事で、3者に特化してこれからはずっと続けていくという事なんではないでしょうか？その辺が今後どうなるのかなと、実は伴走舎で活動の中には、オールからの若者の受け入れ、ひきセンからの受け入れ、そうゆうものも最近非常に多くなって来ています現実には。おそらくそれはサポステさんの方で就労という事に特化して来ている関係もあるのかなという風に思っておりますが、そうなりますと、就労までいけないでも居場所も欲しいなという者達への、今福島先生からもご質問ありましたが、一緒に考えていけたらいいのかなという風に思っております。私自身自分の仕事として、企業のカウンセリング、コンサルティングも含めて、数多くさせて頂いているんですが、そのような中で例えばせっかくジョブトレをつけてそして入口までいった会社まで何とか辿りつけたという若者達が、実は潰れているというのが非常に多いんですね。そうしますと、障がい者枠での採用というのは2%に増えましたけれども、精神障がいはいちよっと先ですが。そうなりますと、障がい者という括りに入らない若者達が実は非常に多いんですね。発達障がいなのか、もしくは鬱なのとかわかりにくい、とかまたは意欲がちょっと足りないのかなみたいなそうゆう子達を含めてますますサポステに殺到しそうな実は世代が多いというのが現実にあると思うんですね。ですので、この事業を特にスムーズに進めていく為には、やはり企業の実態も合わせて一緒に考えていって頂けたらいいのかなと思います。実際に就労まで漕ぎつけたという事でなんですが、ジョブトレのサポーターさんは企業に引き渡して終わり。という事で考えてよろしいですかね。
事務局 (柄澤)	○ ジョブトレサポーターは協力企業さんに、基本的に3か月ジョブトレをお願いして、その3か月の間ジョブトレ生の変化を見守り、相談員に返すと、いう風な流れになっております。
堀内委員	○ そうするとその引き受け手の企業さんの方では引き受けて下さる

<p>事務局 (柄澤)</p>	<p>間相談を担当して下さる方もやはりいて欲しいなとは思いますが、 けども実態はどうでしょうか。</p> <p>○ 相談員は大変多くの利用者さん抱えておりますので、我々ジョブ トレサポーターで、なるべくカバーするようにはしておりますが、 我々だけではちょっと手に余るといいますとちょっとあれですけ ども、ここは相談員に出てもらった方がいいなという風な場合に は、相談員と含めて話し合いの場を持つと、いう事も今年度何回 かありました。</p>
<p>堀内委員</p>	<p>○ 是非定着に繋いで行けるようになるというと思います。</p>
<p>西條会長</p>	<p>○ ありがとうございます。加藤さんお願いします。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>○ 受入企業連絡会の加藤と申します。今の話に関連してなんですけ ども、ジョブトレ後の就労が厳しいという事なんですけども、実 際受け入れしまして週1回2時間程度のを3カ月という事で、そ の期間本当にやる気になったのかとか、いう形という風になかな か難しいのかなという感じはするんですね。その方のそのレベル に合わせたもうちょっとフォローをされていくのがいいのかなと いう事で例えば週1回の2時間とか、3カ月とか6カ月とかいう 切り方ではなくて、もっと継続的に、本人のやる気次第では日に ちを増やすなり時間を長くするなど期間を延長するなり、そんな 形でもうちょっとフォローをされていったらいいのかなという風 に思います。それと今の定着率という話なんですけど、私の所 でもトライアル雇用ですとか、そういった形で受け入れはするん ですけども、トライアル雇用中にもう嫌と辞めちゃったりとか、 いう方もいらっしゃいますので、先ほどの事業実施状況の中で進路 決定者の中の就職者数とあるのでけどもこの方が、定着されて いるのか、それとももう辞められちゃって、またサポステさんに戻 られていらっしゃるのか、その辺りちょっと教えてほしいですね。</p>
<p>事務局 (柄澤)</p>	<p>○ はい、ジョブトレの期間等のやり方でございますけども、週1回 2時間3ヶ月というのは始めの時の基本パターンでございまして、 ジョブトレ生それから協力企業さんそれから相談員からジョブト レサポーターの話し合いによって週3回まで延ばすと、いう事は 可能という風にしてございます。それから時間につきましても、 10時間短いという風な場合には、延ばすという風な事も考えてお ります。当初週1回2時間3ヶ月という風なものから、どんど んどん弾力的な運用になりつつあるという風に思っておりま</p>

<p>加藤委員</p>	<p>す。今後もう少したがをゆるめて行ってもいいのかなという風には考えております。</p> <p>○ あと、利用者さんご本人のやる気というか、例えば農業に興味があって本当に来られているのが、その辺りが中々見えない所なんですね。例えば3カ月ジョブトレで入った後、こうゆう仕事に興味があると言ってもなかなかいい返事が貰えない。という事でその辺りのその利用者さんが本当にどうしたらいいのかという所がちょっとわかりにくかったりしますね。</p>
<p>事務局 (柄澤)</p>	<p>○ 大変申し訳ございません。その一因は我々の指導不足もありますし、もう一つは本当に利用者さんがやりたいジョブトレ先が先ほど申しましたような理由で実際に交通機関の関係で行けないとか、利用者さんのやりたいジョブトレ先がそもそもまだないと、いう風な現実はこの1年やってみて本当にひしひしと感じました。何度も申し上げていますがやはりこの新潟市8区ありますが、新潟サポステは新潟8区全部これからお世話していこうという風な意気込みでやっておりますので、それぞれの区に、ジョブトレ先さまざまな業種のジョブトレ先を増やして利用者さんのジョブトレ生のニーズにあったジョブトレ先がすぐ見つかりると、いう風な体制を作りたいものだという風に考えております。</p>
<p>事務局 (佐藤)</p>	<p>○ 今、加藤さんからご質問頂いた、定着支援の事なんですけれども、これまでも就職された後に、しばらく自信がない、慣れるまでは、相談を受けてきたんですけれども、先ほどの来年度の事業計画の所でもお話ししたように26年は制度的にステップアップ支援というのを行いますので、卒業された方全員に、定期的にその後の状況をお伺いして、そして必要であれば個別相談、後はグループワークのようなものを今考えております。年度が終わりました時には、そのデータ等も、ご提示出来るのではないかなという風に考えております。</p>
<p>西條会長</p>	<p>○ はい、ありがとうございます。それでは少し時間の関係もありますので、続いて3の意見交換に移りたいという風に思います。出席者の皆さんからのご自由に意見交換をして頂きたいと考えておりますが、委員の皆さまには事前に新年度の主な取り組みや若年者支援に関する意見、ご質問などをお話しして頂くようお願いしておりました。本日は、3つの機関からテーマを頂いておりますので、これより発表してもらいたいと思います。</p> <p>○ 初めに、新潟市福祉総務課の丸山委員から、平成26年度の福祉部</p>

就労支援事業について、ご紹介して頂きます。それでは丸山委員おねがいします。

丸山委員

- 新潟市福祉総務課の丸山でございます。お願い致します。本日、配布資料は無いんですけども、福祉部の就労支援関係事業という事で、ごく簡単ですけども、ご紹介させて頂きます。1 つは、パーソナルサポートサービスセンターの設置という事でございます。実際の所、現在新潟県が中央区の方にパーソナルサポートサービスセンターというものを、開設しているんですけども、これは平成 27 年度に施工されます、生活困窮者自立支援法、この円滑な実施に向けまして、国がモデル事業という事で全国で取り組んでいるものでございます。新潟県は平成 24 年の 6 月からですけど、県の労働者福祉協議会の方に委託を致しまして、全県を対象にこのモデル事業を実施しております。27 年度からは市町村の方の事業を。という事で、義務付け等が出て参りますので、新潟市としても、27 年度に向けての準備、という意味合いも含めまして、県の方から受け継ぐという事とあれなんですけれども、引き続き新潟市の方でパーソナルサポートサービスセンターを設置運営して行きたいという風に思っております。

生活保護に至る前の段階の、生活困窮者の方々の、自立を支援するという事で、伴走型の一人一人の状況に応じたきめ細かな就労支援を行ってゆくと、いうそういった事業でございます。出来るだけ切れ目のないサービス提供という事で、今現在実際に、センターとして事業をやっておりますので、そこで、支援を受けている方々がいらっしゃいますので、そうゆう方々の支援をとぎらせる事がないように、新潟市としても取り組んで行きたいとそうゆう風に思っております。

- それからですね、今度生活保護を受給されているような方々向けということで、新潟労働局さんや、ハローワークの皆様と共に、生活保護受給者等、就労自立促進事業をいうものに取り組んでおりまして、生活保護の受給者の方とか、それから住宅を失う恐れがあるという事で支援給付というものを支給させて頂くんですけどもその受給者の方々とか、それから一人親家庭ですね、児童扶養手当、受給者の方などを対象にした、就労支援の実施を行っております。本年 1 月の 20 日からですけども中央区の方に就労支援ナビゲーターを、二人配置するその常駐するハローワークのコーナーを設置して頂いております。ハローワークの職員さんが、いらっしゃって就労支援をするとともに、新潟市としては、そこにその福祉サービスと、一体的に相談支援を受けていくと、いうものでございます。ちなみに 1 月からのちょっと中央区のハロー

	<p>ワークコーナーは、1月20日に二人の配置があつて、2月3日から、ハローワークシステムをその場で見る事が出来ると、いう状況になっておりました、2月末という事でほんの短い期間の実績になんですけれども、相談が29名、就職に結びついた方が2名という、すみません。最新の数字は今ちょっと把握していませんけれども、2月末でそういった状態でした。</p> <p>○ この他の障がい福祉課の方では、引き続き就業支援センターのこあサポートなどの運営で就労を希望する障がい者のご相談に応じて行くという事になりますが、こあサポートでは、職場の検索まで一貫した支援を行っていきまして、かつ、障がい者を受け入れる企業の方に対しての支援というの、相談支援も引き続き行って行って、雇用の促進を図っていく。という事にしております。いずれにしても一人一人の状況が違っておりますので、それぞれの方に応じたきめ細かい支援が必要だと思っております。そういう中では、ハローワーク等の専門の皆様のお力と、それから福祉の方の力が相乗効果をあげていけるといいなという風に思っております。福祉総務課からは以上でございます。</p>
西條会長	○ はい。ありがとうございました。それではただ今の丸山委員からのご報告について、何かご質問ご意見がございましたらどうぞご発言ください。
福島副会長	○ パーソナルサポートサービスセンターの件ですけどこれは再来年度から新潟市でという事でよろしいでしょうか。
丸山委員	○ いえ、来年度からです。
福島副会長	○ もう26年度からですか。
丸山委員	○ はい。
福島副会長	○ スタッフとかは引き継がれるんですか？
丸山委員	○ えっとですね、あの今の所はいったん公募させて頂きたいという風に考えております。その結果として引き継ぐ事になるかもしれませんが。
福島副会長	○ 委託ということですか
丸山委員	○ 左様でございます。

<p>西條会長</p>	<p>○ よろしいですか。他に何かございますか。もし関係する機関の方等いらっしゃいましたら。よろしいですか。はい、他に質問がないようですので、次に新潟市若者支援センターオールを所管する新潟市教育委員会生涯学習課の鈴木委員の代理の伊藤補佐から、平成 26 年度新潟市若者支援センターオールの事業計画について、ご紹介頂きたいと思います。それではお願いします。</p>
<p>鈴木委員 (代理：伊藤)</p>	<p>○ 生涯学習課の伊藤と言います。よろしくお願い致します。まず、あの事業説明させて頂く前に、若者支援センターについて、ご承知の方もいらっしゃると思うんですけど、若干ご説明をさせて頂きたいと思います。</p> <p>○ 新潟市若者支援センターオールというのは愛称ですけども、平成 23 年 6 月に困難を抱える若者の、職業的自立、社会的自立を支援する新潟駅前の万代市民会館に設置を致しました。相談の柱としては 3 つありまして、一つは、支援の柱としては 3 つありまして、一つは相談、一つは居場所、一つは支援事業という事になっております。当初、相談事業につきましては他の機関に適切な機関を紹介するという事でスタートしたんですけども、最近の若者の傾向としましては、なかなか紹介できる場所がない若者が増えて来ております。</p> <p>○ 相談と支援と居場所と当初別々に考えていましたけども、どうしても他の支援機関に紹介出来ない若者が増えて参りましたので、最近では若者支援センターの居場所とですね、支援事業によって、若者支援センターで継続的に支援する若者が増えております。</p> <p>○ ちなみに居場所なんですけども、万代市民会館の 5 階オープンスペースが元々ございまして、そこにですね、居場所といっても、スペースがある場所という事ではなくて、ユースアドバイザーという見守りをして下さる方が常駐して頂いております。話し相手になったりゲームをしたりして、若者がまずそこへ来てもらうという事を当初目的にお願いをしました。その中で具体的に相談はしたいんだという事でその方は実際に相談を担当する別の者そちらの方に繋いで行くという事でございます。先ほどからですねそのサポートステーションとひきこもり相談支援センターの連携等について質問等があったのですけども、私どもはそこで、全てを完結するという風には考えておりません。具体的にはですね、サポートステーションさんに繋ぐ力をつける、就労を希望される方、もしくは復学を希望されるならそこまでの力をつけるという所が私どもの役割かなと、あとですね、アウトリーチ訪問支援というもの私どもは行っておりませんので、訪問支援が必要な若者につき</p>

ましてはひきこもり相談支援センターの力を借りて、行って頂いて、そちらからようやく出てこられた若者を私どもで支援をして、それをサポートステーションに繋ぐというような役割分担という風に考えております。

- 来年度事業ですけれども、先ほどもお話ししたように、私ども就労、サポートステーションに繋ぐような事業、同じジョブトレをしてもしょうがないので、そのジョブトレに参加出来るような社会性等をコミュニケーション能力とかを育てる事業、という事で、昨年、その前の年から、西蒲区にある福井地区という所に、佐藤家というかやぶき屋根の古い建物があるんですけども、そこを拠点としまして近くの農家の方からご協力を頂いて、畑をちょっと畑といっても種を植えて後手入れみたいなものは農家の方にお任せしているんですけども、収穫して、そのもので肥料を作ったり、後はですね、自然に触れて若者の気持ちをほぐしていくというような事でやっておりますし、後は今ここにいらっしゃる伴走舎のご協力等頂きながら、あったか行商体験、なかなか外にお買い物に行けないお年寄りの地区に行商という事で品物を直接売りに行く。もともと伴走舎さんがやっていたものに連携をさせて頂いてやっているんですけども、ジョブトレという意味を全然そこまでいかないものなんですけども、そこをやっぱり体験しないと中々若者というのはジョブトレに行けないという事で、そうゆう事をやっております。あと、先ほど学校連携の所で出て来ましたがフリー相談室、こちらですね、やはり中退した若者もしくは中退しそうな若者というのが非常に今問題になっておりますし、中退してしまうとなかなか支援が行き届かないという事で、その支援を強化したいなという事で、今年度モデル的にスタートしましたけども、これにつきましても 26 年度に継続をしていくとしています。

後ですね先ほどのあったか行商等の関連なんですけども、ボランティア体験、これは社会福祉協議会さんと連携をしてやる予定にしていますけども、これもですねジョブトレではないんですけども、その前の就労の体験をしてもらう、経験をしてもらうという事で来年度新たに計画している事業でございます。

後ですね、若干居場所の話も出ましたがやはり今居場所は課題にはなっています。やはり先ほどサポートステーションさんが居場所じゃない所に力を入れてその代わりに私どもとかひきこもり相談支援センターが居場所を活用して頂いているんですが、やはり居場所が居心地がいいんですけどそこにずっといてしまう若者が増えてきてしまって、その若者の次の居場所を、次の一步をいかに出して頂くかという事でそのような事業も考えていかなければ

	<p>ればいけないなと考えてますが、私どもだけで事業をすべてやるというようには考えておりません。若者支援センターに23年6月に設置しましたけどあとその後の8月に協議会というのを立ち上げてまして、今現在59のですね、官民59の団体の方から加盟をして頂いておりますけども、そういった方々と連携をしながら出来る事業をやっていきたいなという風に考えています。長くなりましたけど、生涯学習課からは以上です。</p>
西條会長	<p>○ はい、ありがとうございました。何か補足だったりご質問ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは特にご質問ないようですので、引き続きひきこもり支援センターを所管する、新潟市こころの健康センターの福島副会長から平成26年度事業計画について発表して頂きます。それではお願い致します。</p>
福島副会長	<p>○ こころの健康センターです。と言ってもあまり従前と変わる所は多くはないんですけども基本的な心の健康支援事業、平成19年からやっておりますが、相談関係等を行っておりますというゆう所で相談件数とかはそこに書いてありますが、労働研究に関する相談を行っております。雇用啓発としては、主なものは市民講座として、毎年テーマは変わっていますが、昨年たまたま若者の生きづらさに関する講演、鈴木さんから聞いて頂きまして、講演等に関する講演シンポジウムという事ですが、来年度ちょっとまだ、決まっております～アウトフォーラムこれは当初～今は民間のネットワークができるようになっていて市は共催でやっておりますが、これは来年度はお休みをするという事しております。ひきこもりネットワークの方の方向性を考えるという事になっております。</p> <p>○ 研修としましては、基礎研修を毎年春先に行っておりますが、専門研修を3月に行っております。これはまた改めて考えていく事にしております。次のページお願いします。続いてはひきこもりの相談支援センター事業名としましてはひきこもり地域支援センター運営事業とありますが、これを23年8月から行っております。そして非常に件数多くて25年度コーディネートを近年増員して今、コーディネーター兼任の責任者1名と、コーディネーター3名の4名体制でやっておりますけども、相談件数が、まあいろんなものを合わせますと、1,000件を超えるという状況で、相談訪問等も忙しく動いております。訪問件数のほうも、下のほうになりますけども、今年度は昨年度を大きく上回る予定でおります。</p> <p>○ 居場所は今週1回万代市民会館でお部屋をお借りして、やってお</p>

りますが、水曜日週一回で月 4 回位ですが、こちらの方も、今伊藤補佐からも言われたように、その中で対応していくという状況があります。今年度、昨年度の春でしたか、若者支援センターさんの方をお呼びして、そうゆう話をして頂きましたけども、若者が次のステップに進まないと、いう事を考えられていて、そこでそこを打破するためのプログラムをいろいろと考案されていましたが、そういったものを参考にしながら、また居場所から次のステップに進むというように考えられていければなと思います。後は件数は増えているので、掘り起こしも必ず厳しい所はあるのですが、生活保護でありますとか、福祉関係、あと区の保健師等とも連携して、なかなかひきこもりの方を抱えているご家族ですと相談に出にくいという事もありますので、掘り起こしをなんとかこうしていければなという風に考えています。続きまして継続の次ですけども救命救急センター等と連携して、自殺未遂をした方の所に訪問したり、相談をしたりして、再び自殺をしないように予防していこうという事業も行っております。こちらの方も件数が今年度随分増えておりますが、仮称なんですけど、暮らし総合相談会という所がございまして、それは基本は自殺対策を目的としているんですけども、自殺に拘らずに、閉ざした心、精神保健、身体、体の病気いろんなこう角度から総合的なワンストップでそこでいろんな相談を一回で終わらす事が出来るような、いろんな人が集まって行う相談会を、月一回、万代シティの中のお部屋を借りまして行われております。3 月と 9 月の自殺の予防強化月間につきましては、主に夕方にやって、働いている人の心の問題にも対応していこう、という事で考えております。ですから、ターゲットとしては、自殺が多い中高年男性に焦点を当てておりますけども、若い方で例えば働いて悩んでいるとかそういった相談にも十分対応ができますので、是非利用して頂ければと考えております。こころの健康センターからは以上でございます。

西條会長

○ はい、ありがとうございました。それではただ今の福島副会長からのご報告について何かご質問ご意見ございましたらお願い致します。よろしいでしょうか。はい。そうしましたら特にご意見ご質問ないようでしたら続いて、配布資料で何かご説明が必要な方はいらっしゃいますか。新潟労働局様はよろしいですか。

関委員

○ 雇用失業状況については大卒と高専との内定率の状況を整理させて頂いたのですが、見ていただければよろしいかと思えます。

西條会長

○ はい、ありがとうございます。昨年度の進路状況の冊子をお配り

<p>事務局 (和田)</p>	<p>しておりますが、お時間がありましたらご確認頂けたらと思います。それでは次に4番のその他に入らせて頂きます。</p> <p>○ 事務局の方から何かございますでしょうか。</p> <p>○ はい、事務局から2点ご連絡を申しあげます。最初に当会議の委員の皆さまの、任期についてですが、平成27年、3月末までとなっております。各機関におかれましては、人事異動等があるものと思いますので、4月に入りましたら、委員の皆さまの異動のご確認を行わせて頂きたいと考えております。また異動による、後任につきましては引き続き女性委員の選任に、ご配慮頂けますよう、よろしくお願い申しあげます。なお異動により新しく委員になられる方へは、改めて委員の委嘱について、ご依頼をさせて頂きますので、よろしくお願い致します。次に、本市の組織改正についてご連絡します。現在、雇用対策課は、経済・国際部に位置しておりますが、新年度からは、経済部雇用対策課となり、国際部門は、観光部門と統合致しまして、観光・国際交流部となりますので、ご承知頂けますよう、よろしくお願い致します。事務局からは以上でございます。</p>
<p>西條会長</p>	<p>○ ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。なければ以上をもちまして、本日の会議を終了させて頂きたいと思えます。引き続きご支援のほうよろしくお願いしたいと思います。それではご協力のほどありがとうございました。</p>
<p>事務局 (高橋)</p>	<p>○ どうもありがとうございました。今後も若年者の支援のためお力添えを頂けますよう、よろしくお願い致します。本日は大変ありがとうございました。</p>
<p>金内雇用対策課 長</p>	<p>○ どうもありがとうございました。</p>